



広報 なんせい

第11号

発行 南西糖業株式会社 編集 総務部
〒891-7621
鹿児島県大島郡天城町兼久高約2337
Tel 0997(85)3125 Fax 0997(85)3129

新年の「あいさつ」

代表取締役社長 中野 繁

新年明けましておめでとう
ございます。
皆様には、健やかに新しい
年をお迎えになられたことと
お慶び申し上げます。

さて皆様ご存知のように、
私共南西糖業は、今期製糖を
昨年12月2日より開始いたし
ました。弊社は、既に半世紀
以上の歴史を徳之島に刻んで
おりますが、その長い歴史の
中でも、12月2日からの製糖
開始は最早となります。

これは、弊社として買入糖
度が少しでも高くなる時期に
集中して製糖を行ったほう
が、農家の皆様の収入増に
貢献できるのではないかと
いうこれまでの考え方を改め
たものです。早期高糖型品種
である農林22号や23号が既に
島内圃場の三分の一以上を占
めるようになったという事実
を勘案し、鹿児島県内外のサ
トウキビ研究者の方々のご意
見も参考に、製糖の早期化に
よって春植・株出作業の早期
化・適期化を計った方が、翌
年の収穫量の安定的な増加に
繋がり、より安定的な収入増
を実現できるのではないかと
いう新しい考え方に舵を切
ったものです。
幸いにして、その試みの初

年度となる今期のサトウキビ
の作柄は上々のようで、今製
糖期の原料搬入予定量は26万
トン近くとなっており、大変
喜ばしく思っております。
ところで私は、一昨年春の
「製糖終了感謝デー」以来、
機会ある毎に、徳之島を「日
本一のサトウキビの島」にし
ませんか、と申し上げてまい
りましたが、最新データを検
証してみましたが、嬉し
いことに幾つかの項目で、徳

之島が「日本一のサトウキビ
の島」と言えるようになった
ことを確認いたしました。
左の表をご覧ください。これ
は鹿児島・沖縄両県で甘蔗分
蜜糖製造を営む14島15社の今
期見通しを一覧にしたもので
すが、ご覧の通り、今期収穫
予定面積と原料圧搾予定量の
二点で、徳之島は今製糖期「
日本一」の見込みです。また
こうした数字に表れるものだ
けでなく、例えばサトウキビ
原料の工場への計画的な搬入
なども、皆様が育て上げられ
たサトウキビを一本の無駄も
なく製糖をする上で重要なポ
イントなのですが、徳之島で

はこれが整然と実行されてお
ります。その他にも、ハーベ
スターによる機械収穫の比率
が既に90%を超え、徳之島は
サトウキビ農業の機械化先進
地でもあります。
弊社も、こうした徳之島の
サトウキビ栽培農家の皆様の
「進取の気風」に遅れてはな
らじと、効率の良い設備への
更新を着々と進め、新しい考
え方を取り入れるなど、日々
努力を続けております。本年
も皆様のご理解とご支援をよ
ろしくお願い申し上げます。
未尾になりましたが、皆様
の今年一年のご多幸とご健勝
を祈念して、新年のご挨拶と
させていただきます。

鹿児島・沖縄両県の島別サトウキビ生産見通し (H22/23年期)

県	島名	製糖会社	収穫予定面積		原料圧搾量		
			(ha)	順位	(t)	順位	
鹿児島県	種子島	新光糖業	2,751		214,919		
	奄美大島	富国製糖	640		33,008		
	喜界島	生和糖業	1,259		91,000		
	徳之島	南西糖業	3,951	①	259,332	①	
	沖永良部島	南栄糖業	1,389		90,265		
	与論島	与論島製糖	497		34,148		
	鹿児島県 合計			10,487		722,672	
	沖縄県	沖縄本島	球陽製糖	1,944		105,000	
			翔南製糖	1,850		129,000	
		計		3,794	②	234,000	③
伊是名島		JA伊是名支店	382		21,184		
久米島		久米島製糖	1,075		64,000		
南大東島		大東糖業	1,254		73,000		
北大東島		北大東製糖	400		15,583		
宮古島		沖縄製糖	1,607		135,000		
		宮古製糖	1,469		108,000		
計		3,076	③	243,000	②		
伊良部島	宮古製糖	777		58,423			
石垣島	石垣島製糖	1,182		91,400			
沖縄県 合計			11,940		800,590		

平成22/23年期 製糖計画

キビ処理見込み量	25万9,332トン
製糖開始日	平成22年12月2日(木)
年内搬入終了日	平成22年12月27日(月)
年明け搬入開始日	平成23年1月5日(水)
洗缶日(工場休止)	平成23年2月7日(月)
春植推進日(工場休止)	平成23年3月7日(月)~10日(木)
原料搬入終了予定	平成23年4月10日(日)

環境に配慮したサトウキビ工場は地球に優しい！

自家発電とクリーンな煙

弊社工場では、徳之島で生産された、サトウキビを原料に、砂糖と糖蜜を造っています。またその過程でサトウキビの搾りカス（バガス）

をボイラーで燃やして搾り汁を煮つめたり、発電させるための蒸気をつくっています。そして工場で使用する電力のほぼ全量を、この蒸気による発電で供給しています。

また一方でこのバガスが燃えるときに煙が発生し、その中にはばい塵（黒いすす）等が含まれています。



ボイラーから排出するばい煙を除去する電気集塵機

す。そのため、工場ではこれをそのまま煙突から大気へ放出せず、電気集塵機（電気を帯びた鉄板に塵などを集めて分離する装置）を通して出る煙をきれいにし、透明に近い状態で放出しています。



製糖工程から出る洗浄水をクリーンにする排水処理設備

して泥状の沈殿物と上部のきれいな液とに分けています。そしてきれいな液だけを排水し、沈殿物は脱水機で絞り肥料として還元しています。

このような環境に優しい設備を導入することにより、煙突からきれいな煙、排水溝からきれいな排水を出す工場として着々と歩んでいます。

クリーンな排水

製糖期間は1000日以上で、その間、工場の機械設備は24時間連続運転の為、約1ヶ月間隔で、操業を止めて中をきれいに掃除したり、摩り減った機械部品を交換したりします。そのときに洗水が排水するのではなく環境へ配慮して、貯水槽（850m³）でエアを送りながら攪拌し、微生物で有機物を分解

工場からのお願い

工場に運ばれるサトウキビの中には、畑から持ち込まれるジュース缶、鎌、園芸用パインなど、様々なものが混入しています。これらを直接機械で搾ると、機械の一部が欠けるなど、安定操業に大きな支障が出ます。ひいては農家の皆様の出荷計画にも影響を及ぼすことが考えられます。工場では多い時には1日10回以上も金物が混入してき

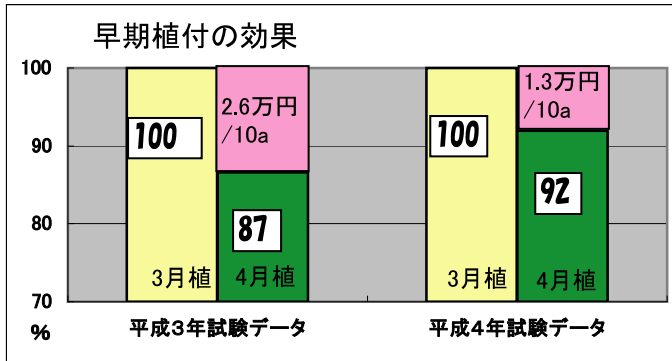


空き缶等の混入物。安全・安定操業には、金物等の混入を防ぎましょう！

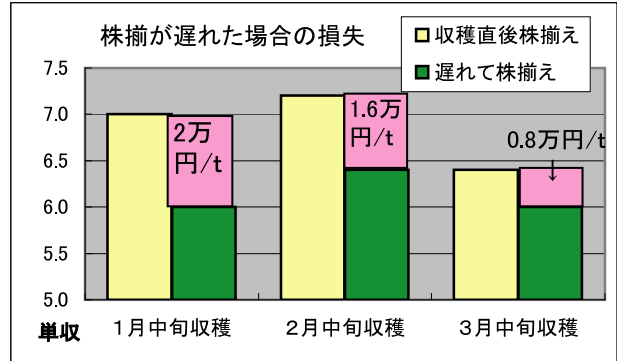
ます。 これまでもあらゆる機会にお願いしていますが、徳之島の環境保全のためにも、ジュース缶等を畑に放置せずに持ち帰って頂くとともに、ジュース缶などを投げ捨てないよう、ご協力をお願いいたします。

「早期植付」、「早期管理」で単収アップを目指そう

今期のサトウキビは豊作型で、徳之島全体で259,332ト（弊社処理量）の生産量が見込まれております。これは気象条件に恵まれたことや、前期製糖が早期に終了し株出管理が進んだことでもあります。農家の皆様の努力によるところが大きな要因の一つといえます。今後は来期へ向けての、春植えと株出管理作業の時期となります。「早期植付」、「早期管理」を行うことにより単収が増え、所得の向上を図ることができます。



※①徳之島支場データ(品種:NiF8)
②3月植付を100とする



※①徳之島支場データ(平成15~17年)
②3品種平均(NiF8,F177,Ni17)

昨年11月25日（木）開催の弊社定時株主総会並びに取締役会において、下記のとおり役員が選任され、それぞれ就任いたしました。

つきましては今後とも倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新役員体制

○平成22/23年サトウキビ農家手取り額が決定しました 基準糖度(13.7度) = 22,292円/t (+906円/t)

・今期の単収見込量から農家手取額(10a当り)を試算した場合(前期との比較)

	1t当り手取額(円)	10a当り単収(t)	10a当り手取額(円)
	(ア)	(イ)	(ア×イ)
今 期	22,292	(見込) 6.596	147,038
前 期	21,386	5.288	113,089
前期との差	+906	+1.308	+33,949

※ 基準糖度13.7度とした場合の比較

昭和46年に入社以来、製造課を中心に旧開発技術部、旧南西テクノ、業務部勤務を経ました。現在は伊仙工場長として従業員一丸となり、農家の皆様の汗の結晶であるサトウキビから砂糖を一粒でも多く回収することに全力投球しております。



取締役伊仙工場長
橋口 英文

新役員あいさつ

なお常務取締役大窪利則は、本総会をもって退任いたしました。在任中賜りましたご芳情に対し厚くお礼申し上げます。

代表取締役社長 中野 繁
専務取締役 増田 静史
常務取締役 鈴木 章
(徳之島事業本部長)
常務取締役 宗宮 暢一
取締役 柴崎 不二男
取締役 橋口 英文
取締役 當 好二
監査役 田中 敬明
監査役 毛利 保弘

これまで同様の皆様のご指導ご鞭撻を宜しくお願い致します。

この度、取締役に就任致しました。入社以来三十年余り、業務関係の仕事を中心に勤めて参りましたが、今後は経営の立場で業務部を担当することになりました。

島内におけるサトウキビは、その経済波及効果も高く、島にとつては重要な作物と位置付けられていますので、今後も安定した生産が持続できるよう全力を傾注したいと思っております。



取締役業務部長
當 好二

業界を取り巻く環境は厳しいものがありますが、地域ぐるみの増産活動と、従業員の実行力で難局は乗り切れると信じております。

今後も先輩方が築いて来られた弊社を盛り上げ、地域貢献してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

第10回先輩達の集いを開催

弊社主催の「第10回先輩達の集い」が、11月11日（木）伊仙町のほーらい館において開催され、三町から先輩方約60人が参加されました。集いの中で、昭和30年代の思い出の写真や、現在の工場の作業風景などがスクリーンに映し出されると、先輩達も懐かしそうに見入っていました。

再会を祈念して万歳三唱



六調よりも語らいの方が…



本社だより

徳之島産原料糖の出荷初め

製糖開始後、12月11日（土）に原料糖1400tを積んだ1番船（新幸丸）が徳之島を出発し、4日後の15日（水）に千葉県の八幡埠頭にて陸揚げされ、精製糖工場の倉庫に無事全量収められました。弊社では、毎年陸揚げ港で荷揚げ作業の確認を行なっています。

精製糖会社では、今期は気候変動などの影響で原料糖の調達に苦労されているのと、品質的にも良い徳之島産原料糖の受け入れに大きな期待を寄せておられました。



荷揚げ作業風景



平成24年4月新入社員募集について

南西糖業株式会社では、平成24年3月に次の学校を卒業見込みの新入社員（若干名）を募集します。

- ① 大学院（修士）
- ② 大学
- ③ 高等専門学校

入社希望者に対しましては、平成23年4月以降に採用試験を実施しますので、弊社総務部（TEL 85-3125）までご連絡をお願いします。詳細は、弊社ホームページをご覧ください。

URL : <http://www.nanseitg.co.jp>

個人情報の取扱いについて

- I 個人情報の取得の目的（当社「個人情報保護方針」2.）
 当社は、サトウキビ農家の皆様から取得した個人情報について、次の目的で取り扱うものとします。
- (1) サトウキビ代金の精算のため
 - (2) サトウキビの生産振興に資するため
- II 個人情報の共同利用について（当社「個人情報保護方針」3.）
- [I] 当社と次の組織との間において、サトウキビ農家の皆様の個人情報を、共同利用させていただきます。
- 1. 農業協同組合との間の共同利用
 - (1) 共同利用される個人データの項目
 - ①生産者名 ②圃場名 ③刈取状態 ④受入各重量 ⑤甘蔗糖度
 - ⑥原料代金 ⑦控除金額
 - (2) 共同利用する者の範囲
 - イ. あまみ農業協同組合徳之島事業本部と南西糖業株式会社
 - ロ. あまみ農業協同組合天城事業本部と南西糖業株式会社
 - (3) 利用する者の利用目的
 - サトウキビ代金の精算手続のために、共同利用させていただきます。
 - 2. 共済組合との間の共同利用
 - (1) 共同利用される個人データの項目
 - イ. 原料受入れデータについて
 - ①生産者名 ②原料受入日 ③農家集落名 ④受入各重量
 - ⑤甘蔗糖度
 - ロ. 営農データについて
 - ①圃場集落名 ②植付面積（品種・作型別）
 - ③過去3カ年の収穫面積、単収、収穫数量
 - (2) 共同利用する者の範囲
 - 南大島農業共済組合と南西糖業株式会社
 - (3) 利用する者の利用目的
 - 共済加入者の諸手続のために、共同利用させていただきます。
 - 3. 有限会社南西サービスとの間の共同利用
 - (1) 共同利用される個人データの項目
 - ①生産者名 ②原料受入日 ③農家集落名 ④受入各重量
 - ⑤甘蔗糖度
 - (2) 共同利用する者の範囲
 - 有限会社南西サービスと南西糖業株式会社
 - (3) 利用する者の利用目的
 - 有限会社南西サービスに対する作業委託者の諸手続のために、共同利用させていただきます。
- [II] 当該個人データの管理について責任を有する者の名称
 南西糖業株式会社 徳之島事業本部 業務部
 電話番号 0997-85-3125

わきや島の宝
イソマツ

徳之島で見られる絶滅危惧植物⑤

イソマツは絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危険が増大している種）に指定されていて、奄美諸島や沖縄諸島の波しぶきがかかるさんご礁の岩場に生育する小型の低木です。

幹が松の木に似ていることから磯の松で「イソマツ」と名付けられました。秋頃には赤紫色の小花をび

つしりと付けます。本種はかつて海岸のどこでもごく普通に群落がありました。近年は薬用採取や海岸の開発で減少し、全く見られなくなった地域もあります。

